

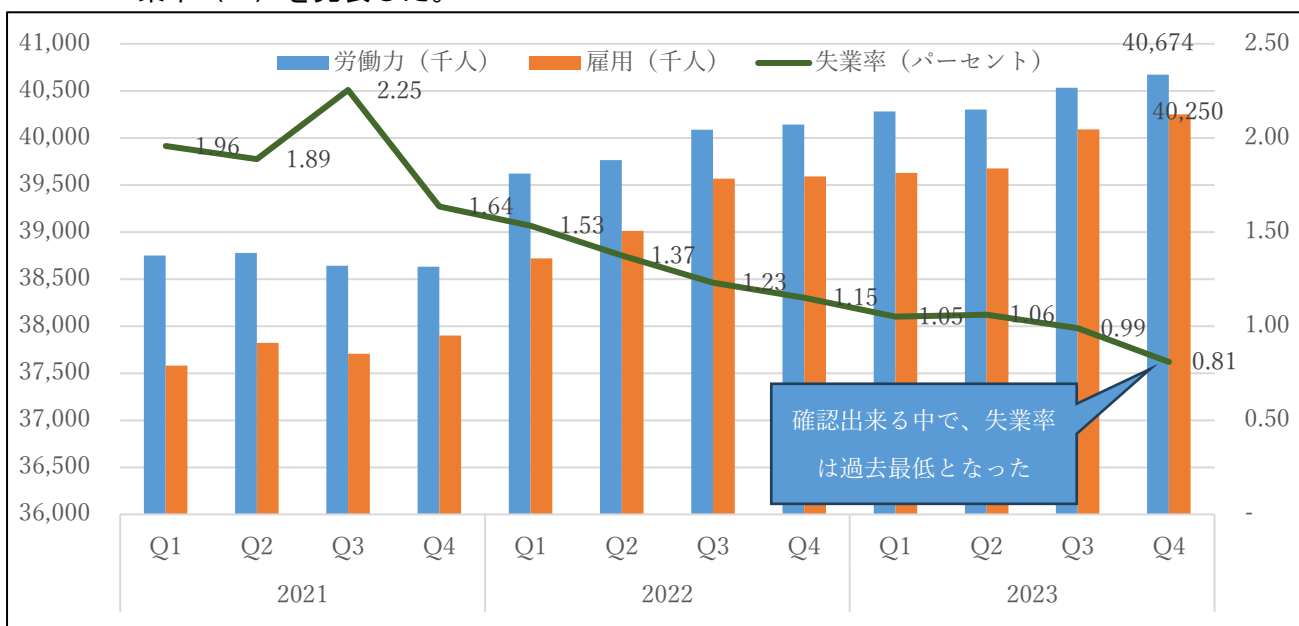
# タイ経済指標斜め読み

(2024年3月版)

ビジネスサポート部  
加藤義人  
kato@mat.co.th

## 1. 【統計データ：労働人口】

タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）は、2023年Q4の労働者数、雇用数ならびに失業率（%）を発表した。

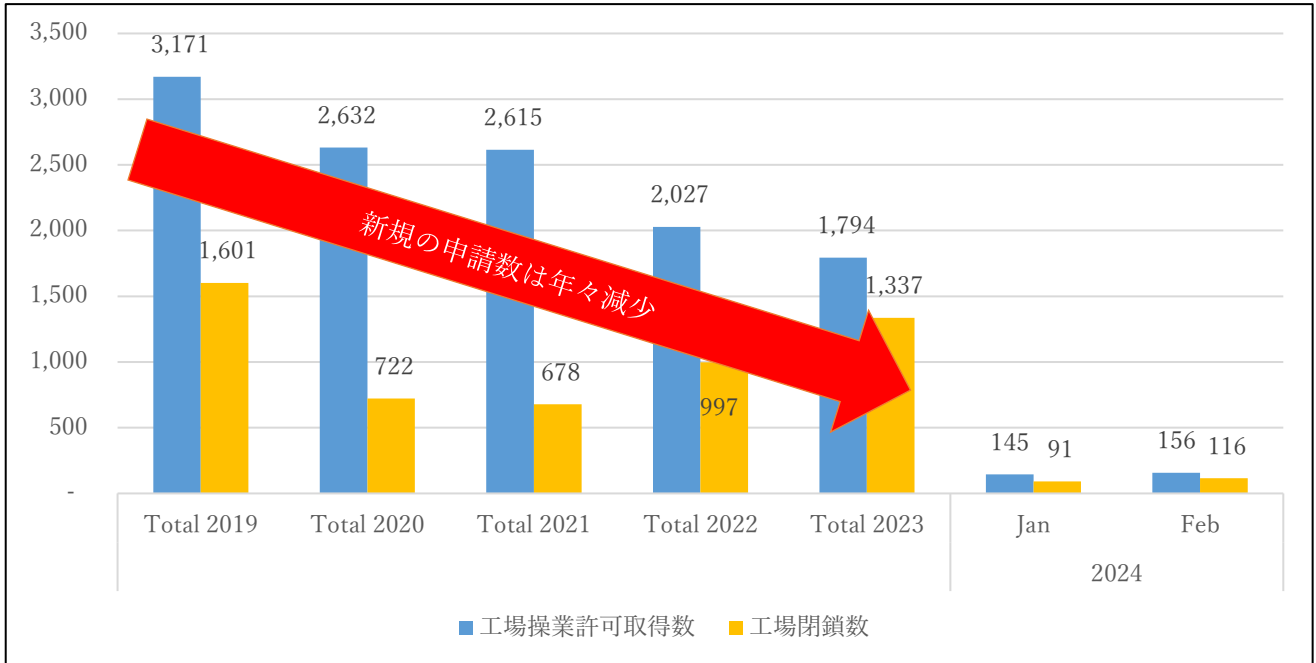


2023年Q4の労働者数は4067万人、雇用数は4025万人で、過去最多（2017年以降）となった。一方、失業率は0.81%となり、過去最少（2017年以降）を記録した。また、労働者数と雇用数の差も42万人となり、こちらも過去最低となった。自動車の生産台数や輸出減、工業生産指数（MPI）の低下などを見るとなかなか経済が好転しているとは言い難いが、労働市場は着実に改善しており、コロナ以降、新しいビジネスも増加し人材不足とも言える状況。タイは2021年に人口ボーナスが終わり人口減となっているが、労働人口は増加している。しかしながら2028年ごろに頭打ちとなり労働力の減少に移行するとみられている。

出所：<https://www.nesdc.go.th/>

## 2. 【統計データ：工場登録数】

タイ工業省工場局（DIW）は、2月の新規工場操業許可申請数と工場閉鎖数を発表した。今回は、2019年から23年までの比較グラフも掲載した。

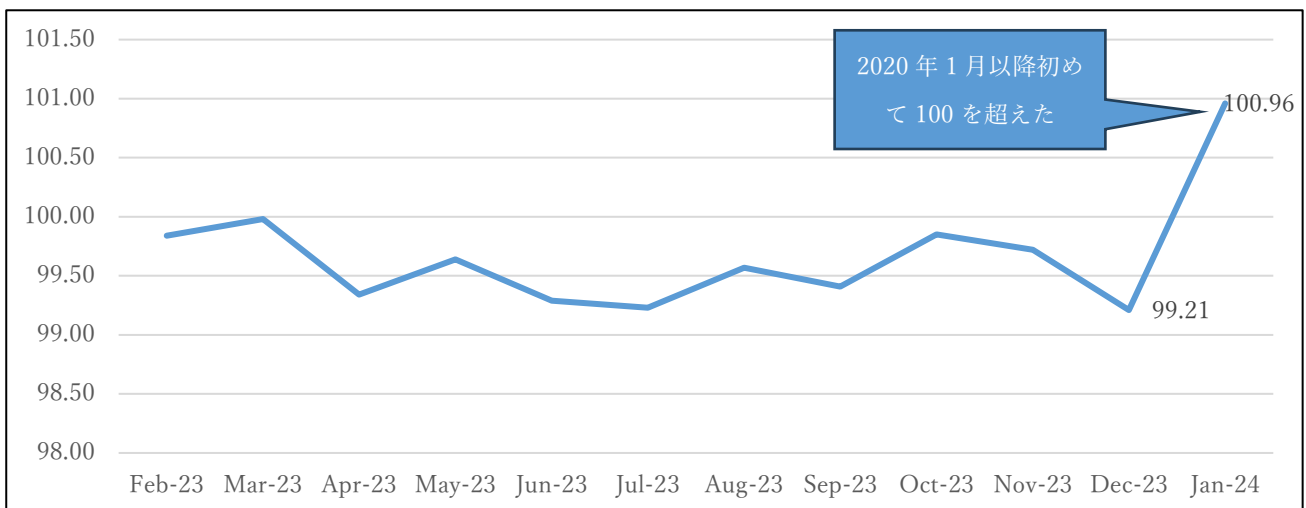


2月の新規工場申請数は156件、閉鎖数は116件となった。新規、閉鎖共に前月を上回った。一方、2019年からのグラフを見ると、コロナ前の2019年以降、新規の申請数が年々落ち込み、閉鎖数は毎年増加していることが見て取れる。今回、データ表示は行っていないが、タイ商務省の新規企業登録数は毎年右肩上がりとなっていることを勘案すると、コロナ以降、かなり急速に産業構造の変化が訪れていることが感じ取れる。

出所：<https://tpso.go.th/>

## 3. 【調査データ：景気指数】

タイ中央銀行は、1月の景気一致指数（季節調整済み）（Coincident Economic Index Seasonally Adjusted）を発表した。（基準年 2019年=100）



1月の景気一致指数は100.96となり、100の大台を超えた。100を超えたのは、2020年1月以来となり、3年ぶりとなる。この指数は、GDP、貿易額、生産指数、投資指数など

7つの項目を元に算出した指数となり、総合的な景気判断が可能な指数と言える。貿易相手国の経済状況や政治情勢、製造コスト増などの不安定要素もあるが、この指数をみる限りでは、2024年のタイ経済は好転していくと思われる。

出所 : <https://bot.or.th/>

筆者紹介 : 2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

**2023 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.**

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点で、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。